

## ちょっと聞いてみたい・・・

## Q&A



今回は、「言葉」についてのQ&Aです。

就学前の子どもの言葉についての質問です。子どもと会話をしていて、子どもの発音が気になった時は、その場で言い直しをさせた方がいいのでしょうか。それとも、そのまま聞き流してしまっているのでしょうか。

また、子どもの発音が気になる時、家や園等で何か気を付けることやできることはありますか。

発音が気になった時に、言い直しをさせようとする、子どもの話したいという意欲が低くなったり、力が入った話し方になったりすることがあります。

子どもの発音が気になった時には、言い直しをさせようとせず、大人が子どもの言葉を、正しい発音で、いつもよりも少しゆっくり、はっきり復唱し、聞かせてあげるとよいでしょう。子どもに正しい音の印象が残りやすくなり、正しく発音する力を伸ばすことができます。

例：子ども「ちゃかな」→大人「うん、さ・か・ながいるね」

友だちや兄弟から発音を指摘されることがあるかもしれません。そのような時には、周囲の大人が友だちや兄弟に「〇〇さんの話を聞くのは楽しいから、先生(またはママ)は、発音が違っていても〇〇さんのお話をしっかり聞きたいな。」「〇〇さんは～が得意だよ。発音は今お勉強中だね。みんな得意なことと不得意なことがあるね。」などと声をかけ、からかいにつながらないように配慮する必要があります。

全ての日本語の音を正しく発音できるようになる年齢には個人差があります。呼吸や極めて微細な舌・あご・唇などの動きの調節が必要です。また人の言葉に注意を向け、1音1音を意識して聞く力が育つと、1音1音を明瞭に話す力も伸びていきます。

発音にかかわる呼吸や口の動きの調節は、人との会話の中だけで発達していくのではなく、口を使う遊びや食事の中でも発達していきます。また言葉を単に聞くだけではなく、1音1音を意識して聞く力も遊びの中で育ちます。

具体例を紹介します。

○吸うこと・・・ジュース・とろみのある飲み物をストローで吸う。

○吹くこと・・・笛・ラッパ・ハーモニカを吹く。そっと吹いて大きなシャボン玉を1つ作る。勢いよく吹いて小さなシャボン玉をたくさん作る。

\*鼻づまりや喉の奥に腫れがなければ、楽器などをくわえて鼻から息を吸い、口から呼吸を出すように大人が見本を見せる。

○かむこと・・・やわらかいせんべいから始め、徐々にかたいおせんべい・ビスケットを前歯で噛み切る。スティック状のお菓子や野菜スティック、トーストの耳などの食べ物を下の臼歯の歯列に沿って少しずつ入れていき、連続して噛み続ける。

○なめること・・・口の周りにはちみつやジャムを塗って舌でなめる。ペロペロキャンディ、ソフトクリーム、ビスケットに付いている少しかためのクリームをなめる。

\*あごは軽く押さえて、頭の上下の動きではなく、舌の上下の動きでなめることができるようにする。

○うがい・・・ブクブク・ガラガラうがいをする。

○1音1音を聞く・・・大人が拍手した回数だけ、ジャンプする。「ラッパ」と「はっぱ」、「あめ」と「かめ」、「くし」と「うし」、「アイロン」と「ライオン」など発音が似ている言葉の絵カードでカルタをする。

発音について相談したいことがありましたら、ぜひ幼児教育センターにお問い合わせください。

(※詳しくは、P2「幼児教育センター相談事業について」をご覧ください。)